

科目名	看護科学特別実習（CNS役割実習） Practice in Nursing
授業形態	実習
標準履修年次	1・2年次
実施学期・曜時限等	通年 応談
実施場所	以下から選択する。 順天堂大学医学部附属順天堂医院 船橋市立医療センター 昭和大学附属病院 東京歯科大学市川総合病院 学校法人獨協学園獨協医科大学越谷病院 聖マリアンナ医科大学病院 横浜市立脳血管医療センター
単位数	2単位(1単位＝45時間)
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga 阿部 吉樹 Abe Yoshiki
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	専門看護師の直接的な指導のもとで、慢性疾患看護専門看護師に必要とされる6つの役割(実践・相談・調整・教育・倫理調整・研究)について学び、慢性看護学領域における複雑な問題を抱える患者や家族への実践能力を高める。
他の授業科目との関連	
履修条件	慢性看護学CNS教育課程の受講者であること。
授業概要	慢性疾患看護専門看護師としての自身の課題を明確にし、各自の看護実践経験を生かしながら臨地の現場での実習に取り組む。
キーワード	専門看護師(Certified Nurse Specialist)、看護実践(Nursing practice)、 相談(consultation)、調整(management)、教育(education)、倫理調整(practical ethics)、
授業計画	1 実習先医療施設の専門看護師が所属するチームに参加し、具体的な援助対象者を設定し、コンサルテーションや教育指導的役割を含む実習を行う。 2 専門看護師を役割モデルとして、専門看護師に必要とされる6つの機能を効果的に習得できるように実習計画を立案する。 3 常に援助計画の実施状況を振り返りながら実習目標の達成に向け実習計画の修正を行う。 4 実習内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のそれぞれの視点から実習報告書を作成する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	看護科学特別実習の課題が看護科学特別研究に繋がるような探索的な実習を行うために、自ら予習・復習を行うこと。

成績評価方法	<p>評価方法と評価配分 実習内容・記録(50%)、ケースレポート(30%)、カンファレンスの発表内容(20%) 実習内容は、慢性看護学実習の評価表に基づいて評価する。学生と実習指導者の評価をもとに、教員と実習指導者の協議により最終評価を行う。</p> <p>評価基準 1 個人・家族または集団に対する専門看護師の卓越した看護実践について理解できる。 2 看護職者を含むケア提供者に対する専門看護師のコンサルテーション機能について理解できる。 3 専門看護師が必要なケアを円滑に提供するために行う、保健医療福祉に携わる人々との調整機能について理解できる。 4 看護職者のケアを向上させるために専門看護師が果たすべき教育的機能について理解できる。 5 専門看護師が行う倫理的な問題・葛藤についての関係者間の倫理的調整機能について理解できる。 6 専門看護師が実践の場で行う、専門知識・技術の向上や開発を図るための研究活動について理解できる。</p> <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～6を自発的な取り組み箕より達成できる。 A 上記1～6を指導に従い優れた内容で達成できる。 B 上記1～6を指導に従い到達目標に達成できる。 C 上記1～6を指導に従い概ね達成できる。 D 上記1～6を指導に従い到達目標に達成できない。 課題が達成できていないと評価された場合には、課題の達成に至るまで実習期間を延長することも可能である。</p>
教材・参考文献・配布資料等	特に指定しない。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	